終盤の猛攻も実らず駒大は今季初黒星を喫してしまった(撮影・岩田陽一)

屈辱の敗戦…

雨の中の惨劇
関東２部の流経大に逆転負け！

雨が降りしきる中、無情のホイッスルが西が丘に響き渡った。駒大が今季初黒星を喫した相手は筑波大でもなければ国士大でもない関東２部リーグに所属する流経大であった。圧倒的に攻めながらも肝心のゴールが決まらず逆転負けを喫してしまった駒大。果たして駒大はここからどう立て直すのであろうか…

鈴木の負傷退場がひとつの分岐点に

大臣杯のキップを手に入れた駒大はこの日、6年ぶりとなる関東チャンピオンを目指し流経大と対戦した。流経大はこれまで国士大を倒すなど今大会の台風の目となっている。しかし、その勢いは試合の序盤に絶たれる。開始2分、**赤嶺**のパスを受けた**小林亮**が素早くシュート。そのこぼれ球を**原**が決め、大金星を狙う流経大の出鼻をくじく。しかし、試合後**中田**が「最初1点をとったことで簡単にいけるんじゃないかという気持ちがどこかにでてしまったと言うようにこの得点が駒大に油断をもたらしてしまった。猛攻を仕掛ける駒大は7分にはCKから**橋本**がヘディング。しかし、ボールは無情にもバーを叩く。その後も13分、14分、18分、24分と決定機を迎えるもあと一歩のところで得点には至らず。そして、やはり決定機をモノにしなければ流れは徐々に流経大に。32分、一瞬の隙を突かれ**岡本**に同点ゴールを許してしまい不覚ながら前半はそのまま終了。

後半も優位にたつ駒大は波状攻撃を幾度となくしかけるが全日本大学選抜の正GK・**塩田**を中心とした流経大ディフェンスを破ることが出来ない。そんな中、53分にアクシデントが起こる。**鈴木**が相手FWとの接触で鼻を骨折。退場を余儀なくされた。すると、「(鈴木)**祐輔**がいなくなってからディフェンスが安定しなくなった」(**中田**)と言うようにディフェンスにほころびが。61分には**船山**にヘディングで決められ逆転。駒大も**原**がその直後すぐさま同点にするも安定感が戻らないディフェンスは64分、**筑城**がペナルティーエリア内でファールを犯してしまう。このPKを**栗澤**に冷静に決められ、またしても追う立場となってしまった駒大。駒大は終盤、**小林卓**を投入するなど攻撃に出るが流経大の粘り強いディフェンスを最後までこじ開けることが出来ず試合終了。ボール支配率57%と圧倒的にボールを支配しながらも駒大は勝利を手にすることは出来なかった。

試合後、「いつかは点が取れるだろうという感じがチームにあった。先制したあとも自分達のリズムでサッカーをやれていれば結果は違っていたと思う」(**中田**)。「最後の決定力もあると思うんですけどやっぱ90分間駒大のサッカーが出来てなかった」(**筑城**)と今季初黒星を様々な形で振り返った。関東選手権はトーナメントのため〝内容より結果〟という感じで勝ち上がってきたが今回はそのつけがもろにまわって来た格好となった。一回戦から決定力の無さは問題だった。しかし、勝つこと以上に優先されるものの無いトーナメントではそれほど問題視されるものではなかった。しかし、今回の敗戦を受けてもう一度直面している問題に取り組むべきではないだろうか？

6年ぶりの関東チャンピオンにはなれなかった。しかし、彼らはそれと引き換えにかけがえの無い財産を手に入れようとしている。その財産をどうこれからに活かすのかそれは選手達自身にかかっている。(**石田雅俊**)